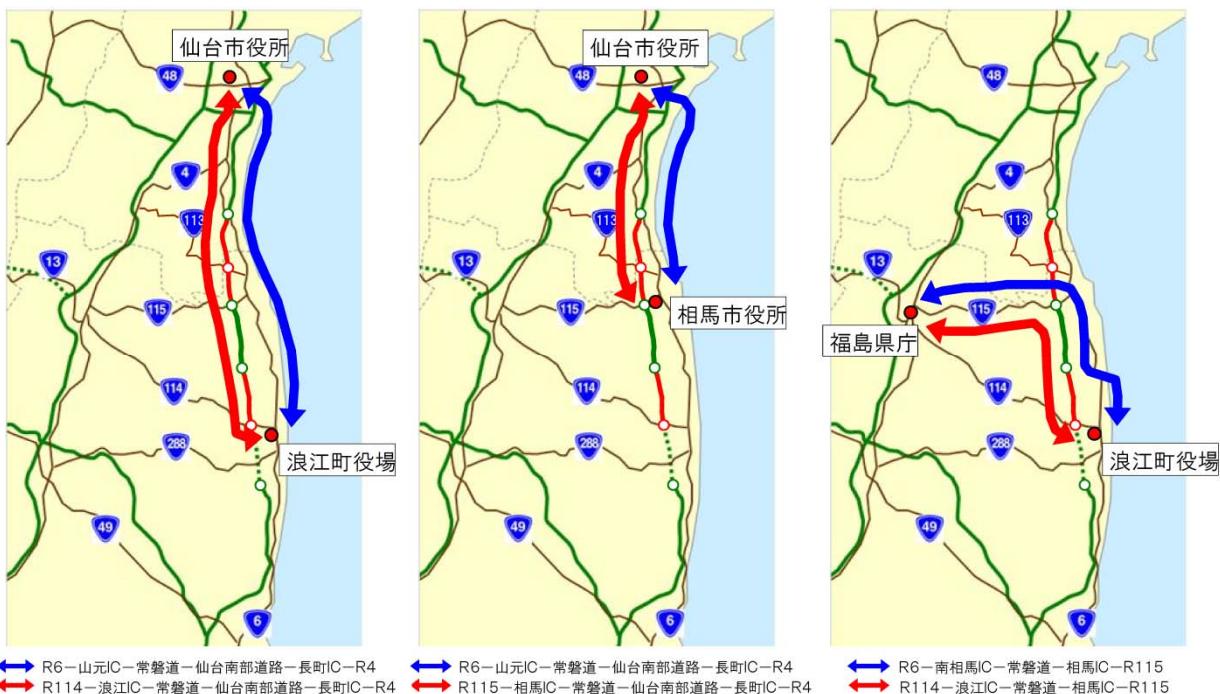


開通による効果

■ 移動時間が短縮されます

浪江町から、仙台市まで約21分、福島市まで約13分短縮されます。

相馬市から、仙台市まで約7分短縮されます。



浪江町役場	開通前 約115分	開通後 約 94分	約21分短縮	仙台市役所
相馬市役所	開通前 約69分	開通後 約62分	約7分短縮	仙台市役所
浪江町役場	開通前 約122分	開通後 約109分	約13分短縮	福島県庁

※移動時間の算出方法：一般道はルート検索ソフトによる検索結果(平日12時出発で算出)。

高速道路は規制速度で走行した場合の移動時間の合算。

■ 全線開通後は、経路選択の幅が広がります

仙台～東京間で、東北道とのダブルネットワークが形成され、
事故・災害時・降雪時の代替ルートが確保されます。

<東北道とのダブルネットワーク化(全線開通後)>

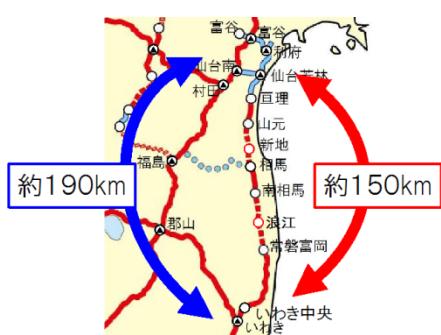


- ① 首都圏と東北道との距離はほぼ等距離
- ② 東北道、磐越道、北関東道とともにラダー型ダブルネットワークを形成
- ③ 常磐道は東北道と比べ降雪が少なく、冬期間の安定的な交通確保が可能
- ④ 東北道の事故・災害・異常気象発生時には、磐越道とともに代替ルートを確保

<拠点都市間のアクセス向上(全線開通後)>

仙台市(仙台宮城 IC、仙台東 IC)～いわき市(いわき中央 IC)の移動距離の短縮

- 東北自動車道＋磐越自動車道経由 移動距離:約190km、移動時間:約127分
- 常磐自動車道＋国道6号(常磐富岡 IC～浪江 IC 間) 移動距離:約155km、移動時間:約139分
- 常磐自動車道全線開通時 移動距離:約145km、移動時間:約120分



※移動時間の算出方法：常磐富岡 IC～浪江 IC 間の一般道はルート検索ソフトによる検索結果、高速道路は規制速度で走行した場合の移動時間の合算

【住民の皆様の期待の声】

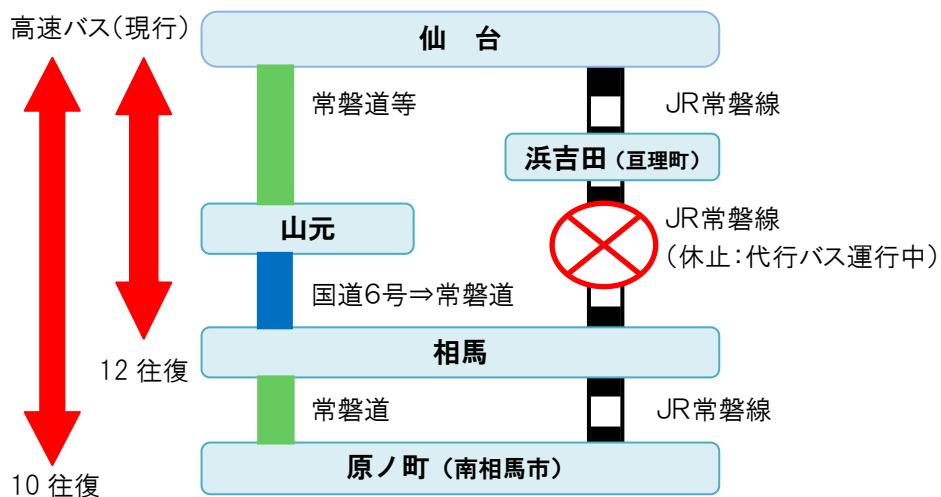
「いわき・東京へも一日も早くつなげてほしい」
「開通により、復興が加速されることに期待する」

■ 高速バスの利便性が向上します

高速バスの速度向上が見込まれることで、震災により一部区間で休止中のJR常磐線を補完し、交流が活発化されます。

■ 高速バスの利便性向上

東日本大震災の影響により、JR常磐線の一部区間が不通となっており、仙台 ⇄ 相馬・南相馬間の高速バスが代替機能を果たしているが、常磐道相馬IC～山元IC間の開通により、高速バスの速度向上が見込まれるほか、福島県浜通りと仙台都市圏との交流が活発化することで、今後、高速バスの増便など、更なる利便性向上が期待されている。



<高速バス（平成26年9月現在）>

- ・仙台～相馬 : 12往復／日 約1時間28分
- ・仙台～原ノ町(南相馬) : 10往復／日 約2時間 5分

<JR常磐線(浜吉田～相馬間の代行バス含む)>

- ・仙台～相馬 : 26往復／日 約1時間45分
- ・仙台～原ノ町(南相馬) : 14往復／日 約2時間 5分

【住民の皆様の期待の声】

「移動が便利になり、復興へ大きく貢献する。」

■ 観光が活性化します

常磐道の開通により、観光やスポーツ交流などが盛んになることが期待されます。



相馬・南相馬地域で行われる「相馬野馬追」には毎年、観光客に人気のお祭りです。
松川浦などの観光名所やサッカー場など、今後多くの方が訪れることが期待されています。



相馬野馬追



松川浦



相馬市サッカー場

【住民の皆様の期待の声】

「お祭りや観光など、長期で泊りに来てほしい」
「常磐道が開通して、松川浦の観光・釣り等レジャーが以前のようになればいいと期待している。」
「開通すれば、サッカーの大会や合宿など、スポーツ交流が増えることが期待される。」

■ 救命救急に貢献します

常磐道の開通により、救急搬送のスピードアップが図られ、
救命率が上がります。



【地元消防の声（相馬）】

「これまでも相馬から仙台へ救急搬送していたが、
搬送が速くなるので、常磐道を更に活用する。」

【住民の皆様の期待の声】

「仙台の病院に行くのが楽になるので助かる。」

重症外傷では、受傷から決定的治療 (definitive treatment: 手術や止血術など) を開始するまでの時間が 1 時間を超えるか否かによって生死が分かれると報告され、この最初の 1 時間を golden hour (ゴールデンアワー) と呼び、外傷患者の治療上重要視されています。（JPTEC協議会による定義）